

新潟県

62年

1月

公民館月報

第407号

特集 新春放談 公民館を語る

越後の郷土玩具(一)

六角 凧

凧はタコ・イカ・イカノポリ・ハタ・ヨウズなど色々呼び名があり、その形も四角のほか、鳥、奴達磨など各地によって変わったものがたくさんある。

凧は江戸期頃から盛んに揚げられ、当時の浮世絵に富士を背に凧がいくつも空に浮かんでいる様子が描かれている。子供ならず大人までが凧揚げに血道をあげたらしくしばしばその筋が禁令を出したという。凧はお正月の景物として子供の健やかな成長と立身出世を願うことから子供の誕生を祝って親戚知人から贈られた。

越後の郷土玩具の代表的なものとして三条白根の六角凧がある。この凧は心棒を抜いてくるくと巻くことができ、他の凧にくらべ持ち運びに便、巻凧という名前が出た所以である。昭和5年刊の武井著日本郷土玩具によると「三条の六角凧は最も傑出した凧で地元ではマキイカと呼ぶ」とある。

凧で忘れてならないのは6月頃行なわれる凧合戦である。三条白根の各地で川を挟んで大人達の手で揚げられる大凧の豪快さとザンブと川に落ちて苦心の絵柄も瞬時に骨と化す潔さはたまらない魅力である。

(玩物居あるじ記)





(あいさつする石井副会長)



生涯教育の中核センター

公民館の充実を

記念振興大会盛大に開催

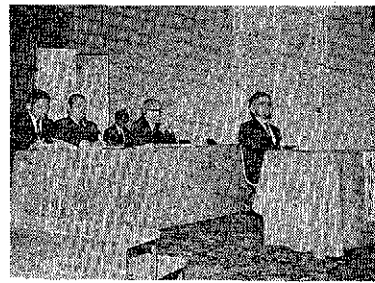
第35回全国公民館振興大会が十一月二十八日、例年のとおり東京の赤坂プリンスホテルで開かれた。

本年は、公民館創設四十周年、全公連創立35周年の節目にあたる記念大会でもあることから、全国から、市町村長・教育長・公民館長など多数参加し、さしもの大ホールも埋めつくされるほどの盛況さであった。

なお本県からは、4名の受賞者をはじめ、市町村長・教育長等四十名が出席した。



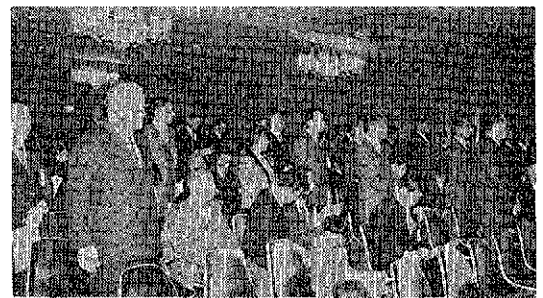
(服部公振連会長)



(来賓席の面々)

主催者あいさつには、全公連副会長石井耕一氏(横山会長欠席のため)が立ち、「この記念すべき節目の年にあたり、原点を見つめ、今後の充実発展を期そう」と述べた。続いて、公振連の服部毅一会長が、「六十二年度の公民館補助予算満額獲得のために努力しよう」と訴えた。

大会のスローガンは、前年と同じで「生涯教育の中核センター」公民館の充実を、「コミュニティづくり実践の拠点公民館の振興を」、「62年度公民館補助予算四億九千九百五十万円の実現を」とである。



(受賞スナップ)

第35回全国公民館振興大会における被表彰者

優 良 公 民 館 表 彰 員	新 潟 市	西地区公民館主事	武 樋 洗
永 年 勤 統 職 員 表 彰	長 岡 市	福戸地区公民館長	佐 藤 平 次
	西蒲原郡黒崎町	前 公 民 館 主 事	山 際 新 郎
記 念 功 労 者 表 彰	中蒲原郡亀田町	前 県 公 民 館 連 合 会 長 事 務 局	本 田 清

表彰式は、記念大会のため、例年にはない、特別功労受賞者六名(全公連に功績のあった者)、功労受賞者27名(各都道府県レベルの役職員で10年以上勤務して功績を挙げた者)を含めて、優良職員表彰受賞者43名、永年勤続職員表彰受賞者139名の表彰が行われた。

来賓には「公民館振興国会議員懇談会」の面々が名を連ねていたが、折り悪しく国会開会中ということもあって、ほとんどは、秘書の代理出席であった。そうした中で、前文部大臣の海部俊樹氏及び西岡武夫氏・渡辺栄一氏の三議員が姿を見せられ、それぞれ祝辞と激励の言葉を述べられた。

このあと、売れっ子小説家で評論家の深田裕介氏の「日本家庭論」と題する講演があった。最後に、恒例の宣言・決議が万場一致で採決され、大会の全日程を終了した。

新分野を開拓せよ

海部俊樹氏は語る

全国公民館振興大会に来賓として臨席された、前文部大臣の海部俊樹氏は、激励のあいさつの中で、「地域の中に、豊かな心を育てるため、公民館の新しい分野を開拓してほしい」と、大要次のように述べられた。

二度目の文部大臣をやらせていただいて、「心を豊かにしなければならぬ」と思いなが



ら、臨教審の答申を読みました。すると「家庭の教育力が失なわ

れているが、これを何とかしなければならぬ」といっています。それでは、家庭の教育力は、何とかすれば復活できるものなのかと考えてみました。が、私にはまだ答えが出ていません。

両親が共働きで、少大家族の家庭では、教育力の期待はできないと思います。だとすれば、家庭の教育力を補完するのは社会教育と学校教育です。子どもたちにとって、始めて同世代年齢や異世代年齢の者が出合う場所を、人間同志の切磋琢磨な

ど、人格形成の場に使っていかねばなりません。そのために、公民館活動は今後ますます、新しい分野で努力してもらわねばならないこととなります。中学校の数より多くの、りっぱな公民館ができて、そこに多くの方々が一生懸命仕事をしていただく。その中に、失なわれた「家庭の教育力」に代って、全体の社会の教育力によって、心を豊かにさせるような方向に導いてほしいものです。

科学技術の進歩は、ますます人間を孤独にと引き割いていきます。「豊かな心」というスロ

辛口

新年おめと胸を張れる館長さんでございませう。はぐくまれてしょう。人・金・物の「ないづくし」を愚痴つてみては、今年も「希望は開けません。ならば、今年も居直り、開き直ってみませんか。」

館長さん、声を出しましょう

会長 志水 亘

まず手はじめに、館長さん方から登場していただきましょう。今月号から「辛口」と改めました。

公民館活動がいきいきと新鮮さを失わないために、私たち職員

の創意工夫が大切で、

思います。

研修をおこなわない覚悟はしていません。しかし、ややもすると、やすきに流れ、独りよがりになりやすいのも現実の姿です。

公民館の動きを見つめていて下さる公民館運営審議会委員、社会教育に理解・経験の深い方々から、この欄を通じて叱正いただきたい。そんな気持ちで「辛口」と名づけました。

おいしい甘口には眼をつぶり、激辛批評に心から耳を傾けたいと思います。

昭和62年度 公民館建築費 国庫補助申請館

設置者	施設の名称	構造	建物面積	工事費	完工年月
新潟市	曾野木地区公民館	RC、3階	1,192㎡	296,700千円	62. 10
新潟市	川崎公民館	RC	1,100〃	173,000〃	63. 3
新潟市	大島公民館	RC	1,100〃	173,000〃	63. 3
新潟市	大湯公民館	RC	397〃	60,000〃	63. 3
新潟市	川西公民館	RC	600〃	99,000〃	62. 12

史を踏まえ、未来をみつめてのご活躍を期待します。



低成長というより財政逼迫の昨今、意に満ちた予算要求が出来た

新春放談 公民館を語る

〈出席者〉

- 若 杉 正 (新潟日報論説委員長)
- 早 川 ヲ (青陵幼稚園主事)
- 田 村 達 夫 (十日町市博物館長)
- 志 水 亘 (本 会 会 長)

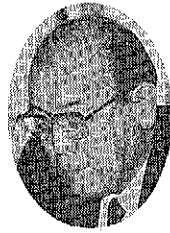
志水 明けましておめでとうございませう。今日は正月ですから気軽に新春放談をお願いしたいということでお集まり戴いたわけです。

若杉さんからは、新潟日報での教育問題の権威として、早川さんからは、学校教育と社会教育との体験者として、田村さんからは、かつての公民館人としての立場から、不惑の年を越えた公民館について、時代とともに変わってきた姿を眺めていただき、これから変わるところがあるのか、あるとすればそれはどこかを指摘して戴きたいものです。まず最初に田村さん皮切りをどうぞ。

田村 十日町のことしか知らないもので、全県的なことはあまりよく見えませんが、私なりに申します。本県は何と申しても公民館と視聴覚が優れていたのですが、近年、県の社会教育行政の中で公民館の影が薄くなっているのが残念です。県公連という組織体の活動をみて我らの

団体という気がしなくなってきました。また、個々の公民館はというと、個性が無くなっています。どこへ行っても判で押しつような事業ばかりです。

若杉 私は公民館の具体的なことは分かりません。新聞記者の眼から申します。公民館は住民

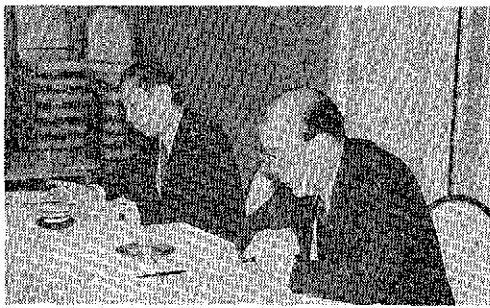


若 杉 氏

の茶の間といわれてきた。寺中構想によると、第一は社会教育の機関、第二は娯楽機関、第三は自治振興の機関、第四は産業振興の機関、第五は青年養成の機関といわれた。その面では公民館は役割を果たしてきたと思えます。しかし、しさいに見るとどうでしょうか。生活改善で例を上げますと、台所改善や食生活改善などかなり変わったかと思えます。だが逆に派手になっていきます。そんなところをみる

と、公民館は「住民の意識を変えることが出来たのか」という疑問がでてきます。もう一つの疑問は住民の茶の間で、誰れでも気軽に入れるし、相談のできる施設の管なのに、最近ではデラックスになりすぎて気楽に利用できない面があるのではないですか。

早川 公民館は地域のための施設ということはよくわかるのですが、市民にあまり知られていないと思います。新潟市でいえば、若い母親で公民館の講座などに積極的に参加している人はあまり多くはいません。公民館を知らない人や、事業になじめない人もいます。これはカルチャーセンターの出現によって専門的な内容がでてきたからでし



よう。だから、公民館も思い切ったイメージを変えたらどうでしょうか。どんどん専門分化していく時代なのだから公民館も今とは違った機能をもつ必要があると思えます。

志水 施設の専門化の傾向と言われて思い出すのは、ひと昔前に「公民館ラッキョウ論」というのがでたことがありますね。図書館ができ、博物館ができ、青年の家ができることに公民館は、皮をむかれ、機能をもぎとられた。その度ごとに、公民館とは何なのか！と考えさせられたものですね。

若杉 「ラッキョウ論」というのはうまい表現ですねえ。専門施設の面で皮を剥かれるだけでなく、住民の茶の間が自治省のコミセンに、地域づくりが一村一品運動にと、公民館や教育委員会サイドで始めては、市町村長部局が主導権を握る。それだけでなく、文化や教養すらカルチャーセンターに、といったように手足をもがれてしまう。これでは「公民館とは何だ」ということになりませぬ。

田村 公民館は、地域性と、日常性、つまり生活を土台にする機関ですから、あまり他人様の動きに振り回されないで足元をよく見るといいと思います。「地域に根ざした」というから

には地域をよく見て、公民館としてしなければならないことは何かを見ることが、やることは足元にあるんです。

早川 お説はご尤もです。でも新潟市の場合を考えると、学校では学齢の児童生徒がいて、教



早 川 氏

師が教えるように、公民館も大人の学校にする。学習の条件整備をするのが公民館の職員の仕事というようにしたらさつきりするとおもいます。

志水 その意見で思い出すのは松下圭一氏の「社会教育終焉」論です。大人の学習に、行政が余計なおせっかいをするなんていうこと。若杉 松下氏は、日本の国民は市民として成熟しているという立場をとっているが、本当に成熟していると考えているのかねえ。私は、公民館を都市型と農村型の二類型で考えたらい

いのではないかと思います。農村地域には、まだまだ住民への啓発の役割が大切です。都市には、指導や啓発よりは、市民の文化活動のための条件整備(学習情報・学習相談の機能の整

備)に力を入れることでしょ
う。

志水 都市型・農村型をふまえて「わが公民館の特色はこ
だ」というものをうち建てる必
要があるのでしょうか。その手掛
かりをどう求めたらいいのでし
ょうか。早川さん、学校ではど
うしているんですか。

早川 子どもたちに何が必要か
を考えて、例えば、情操面から
迫ろうと思えば音楽や美術に力
を入れることになりましょう。
でも、多くの場合、その校長の
得意の方法によりますね。

志水 公民館では、館長の思い
付きによる部分がかかり多いよ
うに思いますが。

田村 公民館の特色というの
は、館長の恣意によるものでは
なく、地域に密着した事業とい
うことですね。それも、アンケ
ートの○×によって地域を知るの
ではなくて、日常の生活の中か
ら知ること。そのためには、職
員はムラの中に入りこまねばな
りません。

本当に地についた仕事をしよ
うと思ったら、地域の土壌をよ
く調べることで、そして、どうい
う品種の作物を育てたらいいか
を考えることです。職員は事務
屋になったり行事屋になりが
ち、「職員はもう一度事務室か
外へ出てみよ」と言いたいので

すね。
志水 そういう話が出たところ
で職員論に移りましょう。若杉
さん、若い記者たちにもどんな
ふうにアンテナ磨きをさせるの
ですか。

若杉 「問題意識を持って」とい
うことです。それによって取材
の中心が深くなります。また、
「足で記事を書け」ともいま
す、つまり、地域をよく知るこ
とと同じ発想です。

田村 主事は、講師と受講者の
両方の反応を見ながら、次にど
うするかということを考えるの
が必須なんです。ところが最近

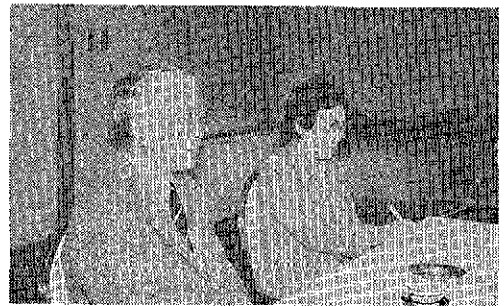


田 村 氏

は、講座室の後ろにいて、やが
て消えてしまふ。

若杉 ある下越の役員研修会
に行つたときのこと。農村のあ
る運営委の人が「公民館は日曜
日は閉館、夜もまた閉まってい
る、いつ利用したらいいの
か」と憤慨していた。私が「新潟市
の公民館は夜も不夜城のよう
に灯りがともっている」と言う
と聞くから、運営委の会議で要
望したらどうかと言った。する

と、運営審議会は年に2回しか
開かれず、最初は春に予算と事
業計画、2回めは年度末の事業
報告で終わり、委員は何をした
らいいのかわからない。館長に諮
問をさせたら」と言うのと、諮問
をさせるにはどうしたらいい
か。(わらい)



の公民館と比べる、大学院出の
受講者がいる(学習要求の高度
化)などで、職員は安閑として
いられない。

志水 そうなると職員が事業を
組むのでなくて、関心のある人
達から集まってもらうというよ
うに呼び掛けをする。

田村 地域の実態を掴み直すた
めに、人材マップをつくる必要
がある。また、社会教育ボラン
ティアとしての人材活用を図る
ことが大事。これは都市だけ
なく農村でもできることです。
館長と職員とがしっかり手を組
んで、運営委など周囲の人たち
を活用すればまだまだ生きている道
はある、要は工夫次第です。

若杉 松下氏によれば、公民館
職員はプランナーであり、コン
サルタントであり、コーディネ
ーターであると言っているが、
これは無いものねだり、全能を
要求するのは酷だが、プランナ
ーにさせない得ないのですか。

志水 なれないといふのではな
く、こうなければならぬと決
めつけられないで、広く意見を聞く
という意味です。コーディネイ



志水会長

トするということです。
若杉 公民館職員に要求される
資質として、コーディネイター
的な世話役の方に比重を移さざ
るを得ないということですか。
志水 その方が、職場の異動で
来る新人たちも気楽になれるの
ではありませんか。

終わりに公民館に寄せる夢を
一言ずつお願いします。
早川 新潟市の公民館が、超デ
ラックスな成人大学になってい
ます。趣味の講座やら職業講
座、教養講座、技術に関するもの
等百〜二百種も揃えてある。世
代別でなく望みに応じたコース
を学習できる、こんな公民館に
なっていないかなあ!

若杉 各種の講座が用意され、
職員のコーディネイターが適切
で、学習情報センターとして整
備されている公民館になってい
る。そのため、収集能力を増すた
めに、シンパがたくさんいる。

田村 県公連はいよいよ館長研
修会を実施した。むろん宿泊研
修だった。出席きわめて良好で
大いに成果を上げている。これ
が刺激となって郡市単位の運営
委の研修会も開かれるようにな
った。

志水 大きな夢、現実的な夢と
いろいろ有難うございました。
今年もよろしくお願ひして放
談を終らせていただきます。

今年もよろしくお願ひして放
談を終らせていただきます。

小木町公民館を訪ねて

公民館探訪記

伝統文化を基盤に

潤いのある町づくり

小木町は人口四千五百人余、世帯数千二百余の小規模な町である。その町に、公民館の他に図書館・博物館という専門施設がある。しかも、それぞれの施設に司書・学芸員

という専門職員が配置されている。また、博物館のほかにも、考古資料館・海運資料館・幸丸展示館という資料館・展示館もある。

これらの施設の有機的連携による生涯学習の推進の実際を探訪した。

—プロローグ—

県の有坂社教主事に同道し、小木町を訪問した。10月13・14日のよく晴れた日だった。

最初に、公民館の応接室で、風間教育長ならびに、笠井社教主事両氏から町の生涯学習の推進について伺った。

この町も、御多分に洩れず、過疎化と高齢化の対策が町の課題である。その課題解決に向けて、「伝統文化を基盤として、文化的な気運の醸成を図り、伝統文化や文化的遺産を核とした町づくり」に取り組んでいるということであった。

—公民館—

町立の公民館は一館、館長は非常勤。公民館主事は、笠井氏が兼ねている。各部落には、地

域公民館（集落改善センター等の施設を利用）と称する自主的な公民館活動の組織体がある。

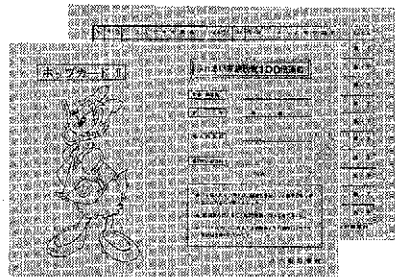
町の公民館は、県の「生涯教育推進モデル市町村」の指定を受けている関係もあって、目標に「生涯学習の推進」が据えられている。そして「住民が一人でも多く学習活動に参加できるように、また、参加する意欲を喚起できるように体制を整備すること」に力を入れている。その一つが「地域公民館」の活性化である。つまり、町の公民館での学習の成果を、地域に還元するための拠点にしたいという構想であり、その実験的試行も進められていた。

—図書館—

昭和59年11月に竣工開館した図書館は、公民館とは100メートルとは離れない距離にある。蔵書冊数はまだ一万冊程度、司書の金井直昭氏が専門職として活躍している。

誰でも気軽に利用できる「開かれた図書館」をねらい、「ふれあい家族・読書100冊運動」「お母さんと子ども読書会」な

どが実施されている。また、「ギヤラリー開放事業」もすすめ、開かれた図書館としてのイメージづくりに一役買っていた。



ふれあい家族・読書100冊運動

—博物館—

小木民俗博物館は、宿根木にある。小学校の廃校校舎を利用した施設と、昭和59年に竣工した鉄筋コンクリート造りの資料館の二棟からなっている。両棟の間に園芸実習地「実証園」がある。この博物館は、文化的な町民サービスに徹するとともに、伝統文化を基盤にする町の活性化への原動力ともなっている。



ふれあい教室

—エピソード—

小木町はいま、観光の町であるとともに、歴史の町・文化の町として「伝統文化の息吹く町づくり」に取り組んでいる。その町づくりの要（かなめ）は、生涯学習の推進であり、社会教育関連施設の有機的な連携である。関係職員の協力、とりわけ、村中を知悉している笠井氏の行動力が、今後ますます重要になってくると思われる。ご活躍を期待して帰途についた。

校低学年の遠足の一団が訪問していた。

公民館活動の創造を目指す

女性だけの職員研修

西蒲・燕公連では、去る10月23日、女子職員のための研修会を実施した。

この研修会は、昭和59年度から実施してきたもので今年は三回目とのこと。

今年の主管は岩室村。午前中は、岩室村公民館を会場に、講師高桑紀美江氏(燕市社会教育課主任)の「女性職員に求めら

れているもの」を議題に熱心な討議が繰り広げられた。

午後には、会場を同村の老人憩いの家「静閑荘」に移し、和気あいあいの中に体験的指導や情報交換等が交わされた。

日ごろ公民館内に閉じこもりがちな女子職員にとって、視野を広める有意義な研修だった。

下越地区社教委連

調査研究誌を発行

下越地区社教委連絡協議会では、去る11月15日付で「社会教育委員の調査研究」なる調査研究誌を発行した。

第一部は、調査結果についてのとめてある。その中から、興味ある内容を一つ紹介する。

- 社教委員の職務遂行下の隘路は何か。
- ①行政と住民とのはざまになっっている社会教育委員
 - ②語問がないため、振りたい袖を振れない社教委員
 - ③のれんに腕押し(のれんに腕押し)の社教委員
 - ④任意制からくる制度の形骸化 (以下略)

かえりみて公連審は？

第二部は、下越管内全上市町村の社会教育の現状が掲載されている。その中で「特色ある事業の紹介」の項は、公民館の事業が多く紹介されていて重要。

紹介 玩物居あるじ



今月号から表紙絵を「越後の郷土玩具」シリーズにした。

提供者「玩物居あるじ」は、本名を野崎史郎といい、十日町市の出身。若いころから郷土玩具の魅力にとりつかれ、全国各地の郷土玩具を千数百点収集していられる。

氏に「郷土玩具とは」と尋ねると、古来から親が子どもに、「病がなれるように」、「丈夫になれよ」、「立身出世を」という祈りのこもったもの。単なる民芸品とは根本的に違い、「心が伝わる」ところが魅力だとおっしゃる。

数あるコレクションの中から本県内のもの12点を選び、解説つきで紹介してもらおう。

野崎氏は、教育界を生きてこられたお方だが、新潟商業高校を最後に、郷土玩具収集の旅にひかれ、定年をまたずに退職。今は自由の身で、ますますこの道ひと筋に余念のない毎日を送っていられる。(新潟市在住)

紫雲寺町中央公民館主任

桐生美砂子さん (39歳)

小学生が、放課後利用する図書室でインタビュしました。

十九年間保母の桐生さんがどうして公民館へ？

「町では家庭教育を推進するため保母の専門性を活かしたのでは？県下で初のケースと思います。」

社会教育の現場の印象は？



「保母を別な視点でとらえる事ができ、毎日勉強になりませす。例えば保育園では幼児

を通して親をとらえていたが、もっと親へのアプローチが必要と考えています。」

二年目の課題は？

「これから親になる人への働きかけです。「すくすく通信」で広報していますが、正直いって反応は弱い。でも来てくれた人を大事にして、話し合いの中で(講義でなく)、人と人をつなげていきたいと思っています。」

女性の職場として公民館は？

「大変！でも家族の協力で。夜仕事のある日は前日に調理し、子供に配膳してもらっています。」

自ら家庭教育実践中の桐生さん(聖籠町公民館 手島勇平記)

素顔拝見

栃尾市公民館社会教育主事

上村 利明氏 (27歳)

昭和三十四年生れ(さそり座の男)181センチの長身の好青年。東北福祉大学卒業後現公民館に勤務。若いのに一人で相当のスペースをもつ公民館図書室の業務を一手に引き受けているほか、青少年教育を担当して四年目を迎えている。

三年前公民館移転の際図書整理が一番つらかったという。反面うれしかったことは、月並だが、事業実施後参加者がよかったと言

ってこれた時。社教主事の資格のほか、可書・学芸員



・並びに中・高校社会科の免許を合わせ持つ学究肌でもある。本年六月図書がとりもつ縁で結婚・奥さんは当市小学校の事務員である。趣味はトランプ遊び。好きな言葉は、「真心」「やるは一時の恥・やらぬは一生の恥」家庭はご両親、奥さんと四人暮らし、栃尾市榎原町の出身。(見附市中央公民館 齋津芳栄記)

県事業紹介

社会教育課

青少年教育事業

青少年期に、豊かな人間形成を図るためには、家庭教育、学校教育、社会教育がそれぞれの機能を発揮し、かつ、補充しあう教育体系をつ

くることが大切である。社会教育取り分け青少年教育では、集団生活の体験を通して、相互に鍛え合い、社会性、自主性あるいは創造性の発達を助長するところが肝要である。このため県教育委員会では、次のような事業を実施している。

県美術博物館

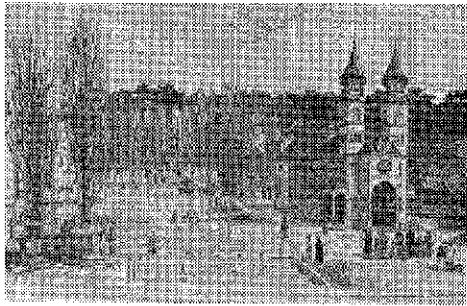
展覧会へのおさそい

「わたしの感じた風景」展

県美術博物館(新潟市一番堀通町・県民会館三階)では、数多い所蔵作品の中から、風景を主題とした絵画・工芸・書などの秀作約七〇点を展示しています。あわせて、三芳錦吉(行動美術協会会員・新潟市出身)の創作絵本「ある池のものがたり」の原画とスケッチ約七〇点を紹介しています。

「ある池のものがたり」は、「異人池」(新潟市西人畑町)という実際にあった池の一生を、作者独特の水彩タッチで描いています。池に対するやさしい思いやりと、作者自身の懐かしい思い出などが融けあって、見る人

はいつの間にか引きつけられてしまう魅力に富んでいます。(二月三日まで開催、月曜日休館)



1 小中学生対象

- ・少年団体リーダー交歓の集い
- ・ジュニア・リーダー研修会
- ・小・中学生科学セミナー
- ・わんぱく集まれ(2回)

2 小中学生と親対象

- ・自然に親しむ親子の集い(4回)

3 高校生対象

- ・高校生ボランティアスクール
- ・高校生ボランティアの集い
- ・高校生リーダーシップ研修(3回)

4 青年対象

- ・青年大会
- ・勤労青年国内研修会

5 指導者対象

- ・コミュニケーションリーダー研修
- ・青少年指導者グループワーク研修
- ・学校生活を豊かにする集い(2回)

6 青少年ボランティアバンク

7 青少年教育振興方策研究事業

あとがき

新春おめでとうございます。当事務局に新しい事務局職員が入局しました。名前は「佐藤」

図書推薦コーナー

「夢と人生」

平澤 興著

人生にはいろいろな生き方がある。

西蒲原郡味方村に生まれ、京都大学総長をつとめた著者が、医学者として、また教育者として歩みつづけた八十年の人生。

その人生をふり返って、人間と人生のすばらしさを語る、滋味あふれる随想集である。

(PHP研究所、B6判、二二〇頁、61年5月刊行、一三〇〇円)

「会津八一全歌集」

会津 八一著

今年、会津八一の没後、三十年にあたる。

本書は、昭和二十六年三月に「会津八一全歌集」が刊行されているのをうけて、新修の全歌本として刊行されたものである。

万葉調にいくらか良寛調を加味した、重厚で優麗な八一の歌調は、年とともに愛好者の輪を広げつつあるが、これらの人々にとっては、待望の書となる。

(中央公論社、B6判、四六〇円)

「若いいのちの旅」

詩人矢沢幸の生涯 鶴見 正夫著

「光る砂漠」におさめられた詩と日記には、死に直面したひとりの少年の壮絶なたたかいがあり、同時にかぎりない生への讃歌がある。

本書は、見附市出身の二十一才で亡くなった夭折の詩人「矢沢幸」の生涯をつづった、若いのちの物語である。

(葦新社、A5変形判、二三四頁、61年3月刊行、一三〇〇円)

発行所 新潟県公民館連合会

【新潟市川端町2-9・県林業会館内】
【電話・新潟(025)224-6073】

発行人 会長 志水 亘

編集人 事務局長 上村 捨二郎
【定価1部120円 年共・年額1,440円】

泰子」といい、もと〇し経験者。自分の間電話の応待などで不如意なことがあるかと思いますがご寛容ください。(上村記)